

第3回モニタリング部会（平成27年1月29日開催）での指摘事項と対応方針（案）

意見者	指摘事項	対応方針
松井委員	PPT. 17 12月に表層水温が8℃もある。夕張シューパロダムになってから回転率が下がりダム湖の水温が上がっている可能性があるため注視しておいた方がよい。	冬季を含めた調査結果が揃う次年度の部会で調査結果を報告する。
	PPT. 18「夏季に上層から中層で貧酸素化となる“傾向”となる」の文章について、「傾向」と書くと毎年起こるように勘違いするので文言を注意すること。	傾向の文言を削除。
	PPT. 90 既往3地点の結果は確かに傾向が似ている。水温・濁度・DO、どの結果が似ているのかをチェックするとよい。	地点間比較が可能なように整理する。（別紙）
柳川委員	PPT. 31 生態系上位種については定期的に成功が確認されているため、特に湛水の影響はないと考えられる。今後は、生態系上位種もそうであるが、多様な猛禽類の繁殖が確認されることが望ましい。	次年度以降も生態系上位性種を含む希少猛禽類の繁殖状況の確認調査を継続していく。
	PPT. 74 コウモリ類がバットボックスを利用しはじめているという点は評価される。また、本年度調査では、旧夕張森林トンネル内にキクガシラコウモリの回帰が確認されていないので継続的なモニタリングを実施してほしい。	次年度以降もバットボックス利用状況などの確認調査を継続していく方針である。
岡村委員	PPT. 41 St. Aの調査区②の消失した種の「ヤマハンノキ」は「ケヤマハンノキ」の間違いではないか。	現地調査会社に確認して問題ない旨を確認した。
	PPT. 65 に記載されている侵略的外来種侵入確認調査に関する記述について、次年度以降、ダム堤体及びダム湖周辺における工事等を実施する予定なのか。	平成27年度以降の工事等は予定されていないので、PPTの文章を削除。
	PPT. 72 当該ダムには類縁種のフクジュソウがあるが、調査対象はキタミフクジュソウで間違いはないか。	現地調査会社に確認して問題ない旨を確認した。
	PPT. 93 次年度以降のモニタリング計画に侵略的外来種侵入確認調査に関して記載がないため明記してほしい。	侵略的外来種侵入確認調査の実施について追記する。
眞山委員	PPT. 78 ニホンザリガニ調査は、同種の生息環境への影響が大きいことから継続調査を終了してよいと考えている。	継続調査の終了に関して、本編及び概要版へ反映する。
中井委員	PPT. 98 ダム堤体が完成したので、堤体天端を調査視点場として上流側、下流側を撮影してもらいたい。また、シークエンス景観1地点を加えた、計10地点が望ましい。	次年度以降の調査計画へ反映する。（本編P. 224、PPT. 98）
	本編197 次年度以降、追跡調査を実施しやすくするために視点場ごとの景観特性と選定理由をとりまとめるとよい。	視点場ごとの景観特性等を明記する。（本編P. 197）
（欠席者意見）		
岩佐委員	PPT. 36 広葉樹林に生息環境が限定される種が確認されているため、植生調査（St. A）の名称を変更してほしい。	岡村委員と調整して地点名称を変更した。
	PPT. 59 ユスリカに関しては、貯水池の拡大に伴う水質変化を把握する上での重要な指標となり得るため可能な限り種レベルまで同定してほしい。	次年度調査計画にユスリカの同定に関する留意点を追記する。（本編P. 222）
	PPT. 100 ヒメギフチョウ調査、底生動物調査は継続することによりよい。ただし、ヒメギフチョウの調査は、可能な限り早春期に実施するのが望ましい。	次年度調査計画にヒメギフチョウ北海道亜種の調査時期に関する留意点を追記する。（本編P. 223）